

①令和4年度の取組内容の報告及び令和5年度の活動方針（案）

No.	令和4年度の取組内容			令和5年度の活動方針（案）
	主な課題	対応及び経過	成果及び結果	
1	【部会の下部組織について】 事業所間の悩みや課題も部会の議題として多い。多くの意見を集約した上でこども部会にもってくる必要があるが、現在そのような場がないため、こども部会に紐づいた検討の場が必要である。（新規）	・こども部会及び障がい児通所支援事業所連絡会との協議を行った。 ・結果的にこども部会に紐づかないかたちで『福井市児童発達支援管理責任者ミーティング』を設立させることになった。	（福）足羽福祉会に事務局を委託し、これまでに計2回福井市児発管ミーティングを開催し、事業所の質の向上や児童発達支援管理責任者同士の顔の見える関係づくりを行った。次年度も継続して児発管ミーティングを開催する。 【第1回】 日時:令和4年7月4日 10:00～12:00 場所:フェニックスプラザ 小ホール 内容:福井市からの集団指導・災害時における対応について・グループワーク 【第2回】 日時:令和4年10月20日 10:00～12:00 場所:福井県立図書館 多目的ホール 内容:行政報告・虐待防止研修・グループワーク 【第3回】 令和5年2月末に開催予定	終結
2	【学校における視覚的支援について】 強度行動障害にならないための表出スキルとして視覚的支援が教育では不足しているのではないか。（新規）	・「口頭指示・口頭での表出以外のコミュニケーション支援」について教員にも知ってもらう機会が必要。 ・強度行動障害基礎研修を教員にも受けてもらってはどうか。 ・学校が対応に困った時の窓口を明確化させてはどうか。	・次年度以降、強度行動障害基礎研修の案内を市障がい福祉課から学校教育課に案内し、教員の受講を促す。 ・個別のケースに応じた相談先があるため、特別支援教育センター、担当地区の特別支援学校に加えて、学校教育課と障がい福祉課（委託相談）が連携して適切な機関に繋ぐことになる。	終結
3	【気になる子の保護者が相談できる場所について】 通常校（普通級・通級・支援級）の「気になる子」（個別療育不要）の保護者が相談できる場がない。また、相談先の中身の充実をすべきではないか。	・学校現場で通級児童保護者の集まり等の集まりの場が必要ではないか。 ・専門機関に繋がったらフォロー中止となるが、その後の行き場がなくなる恐れがある。繋がってもフォローを継続できないか。 ・今すぐ解決するものではないが、課題の解決に向けていこうといった姿勢で取り組んでいく必要があるのではないか。	・周知に関しては、手引書に親の会の URL を載せるなどの対応を行う。 ・障がい福祉課から学校教育課に福祉的な部分の研究会・座談会、親の会の情報を提供し、通常級の家にも届くように配慮していく。 ・健康管理センター、子ども福祉課、子育て支援課など関係部署において協議を行う。	終結

4	<p>【就学時の放課後等デイサービス利用に関する課題】</p> <p>年長児における就学を見据えての放デイ利用申し込みにおいて、(早いもの勝ちではなく、)必要な人が利用できる環境が必要である。</p>	<p>・年長児の就学に向けた放デイ利用について実態調査を行う。</p>	<p>・相談支援事業所に対して実態調査を行う。詳細は資料4参照。</p>	<p>・結果に基づいて次年度以降に WG で協議？</p>
5	<p>【支援が必要な児童に関するハンドブックについて】</p> <p>支援が必要となった場合に受けられる支援や困ったときに相談できる場所について周知する必要がある。</p>	<p>・WG を計2回開催する。</p> <p>【意見】</p> <p>・QR コードを使い、詳細についてリンクが飛ぶようにしてはどうか。</p> <p>・保護者目線で作成してはどうか。等</p>	<p>・詳細は資料5参照。</p> <p>・令和5年2月中旬に印刷業者に依頼し、3月末～4月中旬には完成予定。</p> <p>・配布数については、ページ数や色使いによって変動するが、より多くの関係機関に配布できるよう調整する予定。</p> <p>・市 HP 上で公開し、誰でも閲覧・印刷できるようにする予定。</p>	<p>・毎年のこども部会の中で内容を精査し、ブラッシュアップしていく必要がある。</p> <p>・冊子作成の予算はないがHP上でデータを更新していく予定。</p> <p>・必要に応じて障害児通所支援事業所の紹介ページを作成していく。</p>
6	<p>【強度行動障害に対する対応】</p> <p>以下3点について運営会議から調査依頼</p> <p>①強度行動障害に繋がらない仕組み</p> <p>②事業所や教育機関に対しての理解促進の取組</p> <p>③成人期までを見据えたサービス調整</p>	<p>計4回 WG を開催し、『強度行動障害に関する研修』と『移行支援』について協議を行った。</p>	<p>・詳細は資料6参照。</p> <p>・研修については、今ある研修メニューの中に強度行動障害に関することを含めたテーマにしていく。その際の窓口は、医療は医師会・教育は学校教育課・福祉は障がい福祉課が適切な専門家を紹介する。</p> <p>・移行支援については、誰かにイニシアチブを任せるのではなく、みんなが意見を出しあって、そのケースに応じて対応していく。</p> <p>・強度行動障害の加算がついている児童(19名)については、医療・教育・福祉の3者連携が必要である。その旨を関係機関に周知するとともに、障がい福祉課から保護者宛て受給者証発行時に周知することを検討する。</p> <p>・WG の内容については、全体会において報告予定。</p>	
7	<p>【教育と福祉の連携について】</p> <p>①教育と福祉の緊密な連携が必要</p> <p>②教育と福祉の連携がうまくいかないときの相談システムが機能していないのではないか。</p>	<p>①障がい福祉課として「福井市教育支援委員会」及び「福井市特別支援教育専門委員会」にした。また、福井市特別支援教育専門委員会における地区別協議会(市内の特別支援学校や小中学校が地区別で構成される)が10月に開催され、それぞれの会議に障がい福祉に関係する事業所が参加した。</p> <p>②資料2(令和元年度第3回こども部会資料)において、教育と福祉の連携がうまくいかない</p>	<p>①・7月に就学相談会を開催し、就学予定の保護者に対して『発達障がいについて』『児童館・児童クラブの利用について』『障がい児通所支援の利用について』説明会を行った。</p> <p>・10月の地区別協議会では、保育園・学校・福祉(委託・障害児相談支援事業所)の関係者約150人が一堂に会し、障がい児の支援に関する講演と特別支援教育コーディネーターを中心にグループワークで事例検討を行った。教員が福祉に求めることと、相談員が学校に求めることの間で理解不足・連携の仕方の課題があることが共有された。</p> <p>②詳細は資料1参照。</p>	<p>①今後も「福井市教育支援委員会」「福井市特別支援教育専門委員会」に障がい福祉課として参加するとともに、年に3回程度開催される地区別協議会において、教育と障がい福祉の連携の場が継続して設定できるようにしていく。</p> <p>②結果に基づいて次年度以降に WG で協議？</p>